

非経済学部における経済学の初年度導入授業の構築プロジェクト

An Economic Education Project for non-Economics Faculties
Using Active-Learning

<プロジェクト・メンバー>

石田 博之^{†1} 長橋 透^{†1} 南部 和香^{†1} 伊藤 由樹子^{†1}

Ishida Hiroyuki^{†1} Nagahashi Toru^{†1} Nanbu Kazuka^{†1} Ito Yukiko^{†1}

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

キーワード：経済教育，経済学の基礎的概念，アクティブラーニング

Keywords: Economic Education, Basic Economics Concepts, Active-Learning

【研究目的】

本プロジェクトの目的は、本学部のような経済学部ではない学部において、学生が経済学を学ぶためには初年度にどのような橋渡しとなる教育コンテンツが有益なのかを、アメリカのコンテンツ等を参考にしながら開発することである。

主として参考にしているアメリカのコンテンツは、全米経済教育協議会（Council for Economic Education: CEE）によって開発されたアクティブラーニングを活用した経済教育である。

【進捗状況】（2022年度）

新型コロナウイルス禍が続くなか、社会情報体験演習（前期、火曜4・5時限）のなかで、昨年度と同じ三つの経済アクティビティを対面形式で行った。昨年度に引き続き感染予防対策に配慮しながら、新型コロナ

禍以前の対面授業形式にできる限り戻しつつ授業を行った。

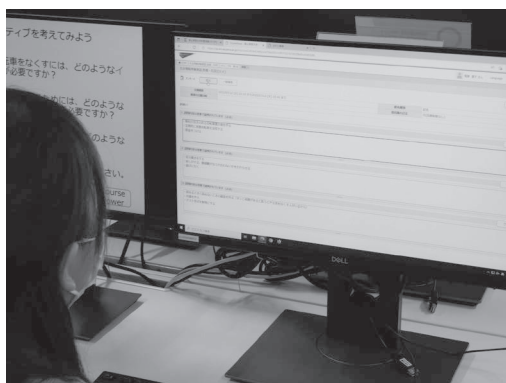
1. 授業環境の構築

2021年度と同様に、使用教室は主たるN203教室に加えてN213教室も活用した。グループ1～3は約55名、過年度生を含むグループ4は54名で構成し、例年の約60名よりもやや少なくした。講義部分はN203教室で全員を対象に行い、経済アクティビティについてはメイン教室のN203だけでなく、内容によってはサブ教室のN213も使用して実施した。また新型コロナウイルスの感染予防対策としては、昨年度に引き続き、入口や窓の開放による教室内換気、パーティション、体温計測機、CO2測定器の使用、さらには空気清浄機をN213教室に複数台置くなどした。

2. 社会情報体験演習

当該科目は必修科目であるため 2021 年度の新入生 215 名に過年度生 4 名を加えた合計 219 名が受講しており、これを 4 クラスに分けて、1 クラスごとに三つのアクティビティを行った。授業は本年度も、まず 4 時限目は長橋がファシリテーターになり経済学に関するアクティビティを行い、次いで 5 時限目は石田がファシリテーターになり 4 時限目のテーマの関連データを使った Excel 演習を行った。

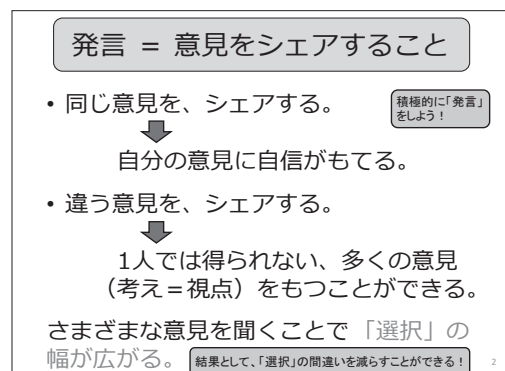
経済アクティビティのパートでは、Saunders, et al.[3], Mankiw[2], 内田・友原 [5], 柳川 [6]などを参考にして作成したパワーポイントのスライドをスクリーンに提示しながら、関連する経済学の内容やアクティビティの進め方を説明した。また新井他 [1] や Mankiw[2] を参考にして作成したミニクイズに受講生が解答する際には、本学の LMS であるコースパワーを用いた（下図）。



2022 年度に実施した経済アクティビティは、①「経済って何？経済学って何？あなたなら何を選ぶ？」、②「希少な資源は誰のもの？」、③「取引して得るものは何？」の三つである。内容は昨年度までと同様である。以下、新型コロナ禍 2 年目の対面授業の内容を記録として残しておく。

①「経済って何？経済学って何？あなたなら何を選ぶ？」

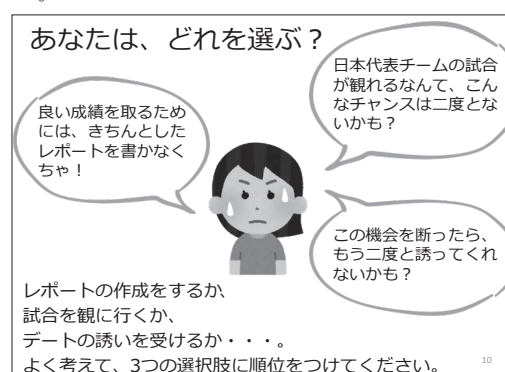
今回の報告書では、本来の経済アクティビティに入る前にやっている。学生に「意見を述べることの重要性」について考えさせるアクティビティについて触れたい。そのときに用いたスライドは以下である。



子供の頃は皆が手を挙げて発言の機会を求めるが、小・中・高と成長するにつれて、発言しなくなる傾向がみられる。このアクティビティでは、まず「発言＝意見をシェアすること」という学生にとって新しい視点を提示することから始める。スライドにあるように、同じ意見が出てきたときには、「他にも同じことが考えている人がいるんだ」と自分の考えに自信をもつことができる。他方、違う意見が出てきたときには、「そういう視点もあるんだ」ということに気が付くことができる。

つまりこのアクティビティでは、社会、あるいは組織のなかで発言することは、正誤の問題よりも、多くの意見（考え＝視点）を互いにシェアすることで課題解決に向けた選択肢を増やすことが可能になり、その結果、より正しい判断を導く可能性を高めることができる。これが、学生に意識づけたいことである。

この回ではまず講義パートとして経済学の専門用語である希少性、分業、選択、効率性、機会費用について説明したあと、次のスライドで機会費用に関するアクティビティを行った。



このスライドにある三つの選択肢についてまず説明し、そのあとで各選択肢を選ぶことのメリットとデメ

リットを考えさせながら順位付けをさせた。そのうえで、一番に選んだ選択肢ごとに代表者を前に集め、その選択肢を選んだ理由について説明してもらった。その様子が以下の写真であるが、左の円囲みから「レポート」、「コンサート」、「デート」を選んだチームである。



各チームは、時として他のチームの意見を否定しながら自分の選択の正当性を力説することもあり、他チームの意見になびいてしまう学生が出たりすることもあり、教室が盛り上がるアクティビティである。

授業の感想をみると、今まで何気なく行っていた「選択」という行動を新しい視点から学んだことで、その重要性を再認識したようである。「新しい視点を学ぶ」ことは、経済学に限らず大学教育の一つの要諦ではないだろうか。以下、学生の感想を列举しておこう。

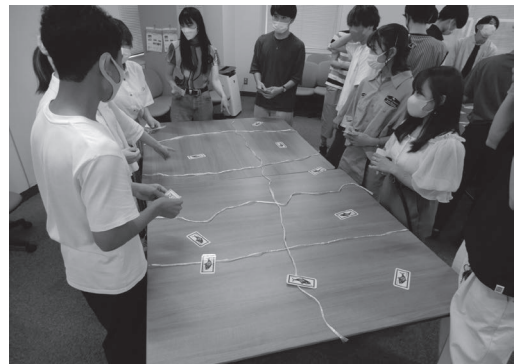
- ・自分とは違う意見を聞くことで納得する部分があったり、自分の中に新しい考え方が生まれたりしてとても勉強になるなと感じた
- ・同じ選択をしていても自分とは違った視点の理由があり驚いた
- ・特に機会費用の話は驚く部分が多かった
- ・目に見えない費用として機会費用があることは興味深かった
- ・今まで何となく直感で選んできた選択の中にも、無意識のうちに機会費用を考慮して決断をしていたのかと考えると興味が出てきた
- ・経済学とはどのようなものを学ぶのか、自分の中にあった概念が変わったように感じる

②「希少な資源は誰のもの？」

ここでは、まず講義パートとしてインセンティブの与え方によって人の行動が変わる原理について簡単に説明した。さらに①放置自転車をなくすためには、②

気になる相手を振り向かせるためには、③学生にしっかり勉強させるためには、という三つの課題を与え、学生達が考えたさまざまなインセンティブについて意見を求めた。

次に、関連する経済アクティビティとして「漁のアクティビティ」を行った。ここでは過度な密状態を避けるために別教室（N213）のテーブルを使い、さらにアクティビティの時間を短めにするなどの工夫も行った。アクティビティの内容は、漁場がフリーアクセスの状況と以下の写真のように私的所有権が与えられた状況（自分の漁場が線で区切られている状況）を考え、前者では私的インセンティブにより資源の乱獲が起きやすいが、後者ではそれが起きにくいことを体験する。このとき、獲った魚が1回目よりも2回目の方が高値で取引されることが前提となっている。そしてこのアクティビティから、乱獲を防ぐためには私的所有権が確立していることが重要であることを体験的に学ぶとともに、ゲーム理論における囚人のジレンマや共有地の悲劇がこのアクティビティに関連していることを学んだ。



ここでの授業の感想は以下である。

- ・マイナスのインセンティブよりもプラスのインセンティブを行うほうが自分はより行動しようと思う
- ・褒美のインセンティブよりも罰によるインセンティブのほうが実行する気になることが多いと感じた
- ・漁師を模したアクティビティを通して、私的所有権保護の大切さや囚人のジレンマを実感できた
- ・漁のシステムが少し変わった（漁場が決められた）だけで行動が全く変わったのがとても面白かった

最初の二つの感想からは、インセンティブの与え方ひとつにも異なる意見があることがわかる。そして板書によりこれらを共有することで、学生は自分と異なる

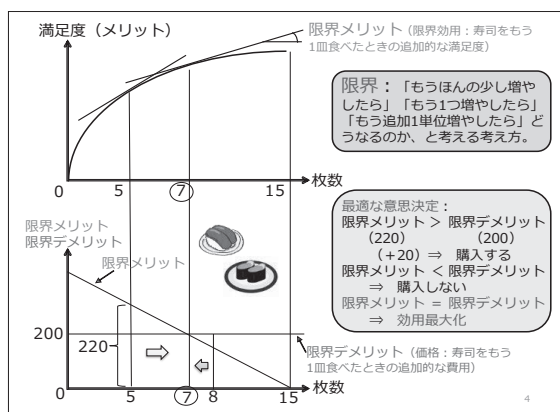
る意見を知ることができる。その結果、前回の授業内容（発言＝意見をシェアすること）をこの授業からも感じ取った学生がいたことは喜ばしいことであった。

③「取引で得るものは何？」

このアクティビティでは、まず講義パートとして消費者が意思決定する際に限界メリットと限界デメリットを考えるという限界分析について学んだあと、YouTube 上のコンテンツである Classroom Trading Game[4] を参考にして設計した、物々交換にもとづく市場取引のアクティビティを行った。まず、限界分析についての感想には以下があった。

- ・合理的な人々は限界原理に基づいて考えるという言葉は、漠然と認識してきたルールに言葉がつけられたようでいたく感動した
- ・経済学の中で数値としてその行動を考えるととても面白く、理にかなった行動であるといえると思った
- ・普段寿司屋で食事をするときに便益について考えたことがなかったが、・・・グラフなどを使って考えてみると、ここまではメリットの方が大きいがここからはデメリットの方が大きいというように、はっきりと便益がわかったのが面白かった

以下がその時のスライドである。経済学の考え方を正確に理解するためにはこれだけでは全く足りないが、このような感想をみると、この授業が導入教育としての役割を果たしているように思われる。



次に経済アクティビティでは、今回も A～F の各チームに学生を分けたあと、まず複数の品物が入った紙袋を各学生に渡して、その中身を見たうえで満足度を 1～10 の値で評価させた。それをチームごとに合計して列挙したのが下の写真の④列（左端）である。

次いで①では背中合わせの二人による交換、②は 2 グループ内での交換（約 16 名）、そして③はクラス全員（約 58 名）での交換の結果である。交換の対象人数が多くなるにつれて合計の満足度が大きくなっていることがわかる。つまり交換の機会が増えるほど効用が高まることを体験することで、市場取引の意味を学ばせた。

	①	②	③
A	31	49	59
B	39	44	56
C	49	49	56
D	29	31	39
E	52	53	62
F	45	49	51
合計	245	295	323

このアクティビティの感想は以下である。

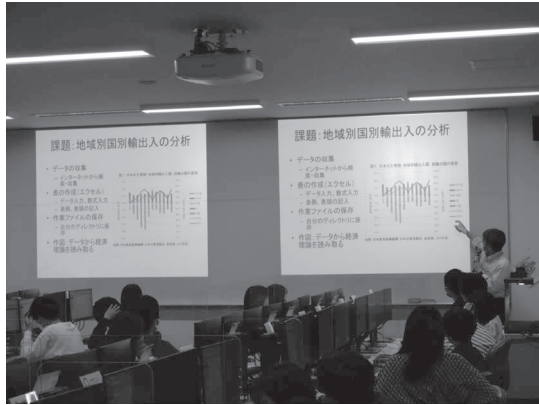
- ・存在しているモノの量自体は変わっていないのに、取引をし、だれが持っているかによってここまで満足度が変わってくるとは驚いた
- ・アクティビティを通じて、物々交換は互いにメリットがあれば双方で満足度が増えることがわかった

このように、多くの学生が交換により効用が高まることを体験することができたが、なかには自分の自由意志ではなく、無理やり交換させられたことで効用が下がった学生もあり、これを共有することで「自由意思に基づく」ことの重要性も感じさせることができた。

3. Excel 演習

各 5 時限目は 4 時限目の内容に関連するデータを使い、Excel リテラシーを高める演習を行った。①「経済って何？経済学って何？あなたなら何を選ぶ？」では機会費用に関連させて日本の学歴別賃金の違いについて、②「希少な資源は誰のもの？」では日本の魚種別漁獲量の変化について、③「取引して得るものは何？」では日本の地域別輸出入の変化について、それぞれデータの収集から始めて、表やグラフを作成し、そしてグラフから読み取れる特徴を考察としてまとめさせた。

下図は③に関連した「地域別国別の輸出入の分析」であり、前二回の授業での比較的単純なグラフ作成をもとに、最終的には二軸積上げ棒グラフを作成させた。



さらに下図は②に関連して「魚種別漁獲量」のグラフを作成させたが、そのときの考察のヒントになるように、日本の漁獲量がどのように変化してきたのかを説明している様子である。



【結びに代えて】

2022年度は、新型コロナ禍のなかでの二回目の対面授業であり、アクティビティの内容を2019年度までと比べてそれほど変更せず実施することができた。また2021年度と同様にコースパワーを活用しながら各種の課題やミニクイズなどを実施することができ、紙媒体に比べると不要な接触の機会を減らせるだけでなく、それらをデータとして保存することも可能になった。

本プロジェクトも6年目を終え、その形が明確になってきた。1年時の必修授業として行われる社会情報体験演習の経済パートはあくまでも経済学への導入授業であり、わずか3回の経済アクティビティを通じて、経済学を学ぶ意識を高めることを最大の目的としている。そのなかにあって学生から「経済学は難しいものだ」という印象を抱いていたが、今日実際に経済学の初めの部分を学んでみて、私は経済学に興味があるということに気づくことができた」といううれしい感想が聞けた。一人でも多くの学生からこのような感想を聞くことができるように、アクティビティが楽しくなるような新しいアイデアや、内容の吟味に関する議論をさらに重ねていきたい。

参考文献

- [1] 新井明・柳川範之・新井紀子・e-教室編著(2005)『経済の考え方がわかる本』岩波ジュニア新書
- [2] Mankiw, N.G. (2015), *Principles of Economics*, 8th ed., (足立英之他訳『マンキュー入門経済学(第3版)』, 2019, 東洋経済)
- [3] Saunders, P., G. L. Bach, J. D. Calderwood, W. L. Hansen, H. Stein (1984), *A Framework for Teaching the Basic Concepts*, 2nd ed., JCEE, (岩田年浩・山根栄次訳『経済を学ぶ・経済を教える』, 1989, ミネルヴァ書房)
- [4] Teaching Economics: Classroom Trading Game (GainsfromTrade)
https://www.youtube.com/watch?v=XpmdIS9_EU&t=58s (最終閲覧日 2022.1.20)
- [5] 内田達也・友原章典編著(2011)『トピックスで学ぶ経済学』中央経済社
- [6] 柳川範之(2015)『東大柳川ゼミで経済と人生を学ぶ』日経ビジネス人文庫, 日本経済新聞出版社